

阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりオープンハウス等 実施記録

<目次>

1	オープンハウス開催記録	P 2～11
1.1	オープンハウス会場での意見（3日間）	
1.2	意見交換での意見概要①～③	
1.3	付箋に書かれた意見（3日間）	
2	アンケート実施記録	P12～28
2.1	アンケート回答者の属性	
2.2	アンケート意見（オープンハウス会場）	
2.3	アンケート意見（パネル展示）	
2.4	アンケート意見（Web アンケート）	

阿佐ヶ谷駅北東地区のまちづくりでは、今後の杉並第一小学校の改築等に向けて、令和5年8月・10月に「阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりを振り返る会」を開催したところ、様々なご意見をいただきました。そこで、これまでの経緯と現状について改めてお知らせするとともに、「振り返る会」でいただいたご質問にもお答えし、さらに地域の多様なご意見をいただくため、令和5年12月にオープンハウスやパネル展示、アンケートを実施しました。本資料はその記録をまとめたものです。

※オープンハウス時に来場者が付箋で書いた意見や、アンケート意見は原則として原文のまま掲載しています。

1 オープンハウス開催記録

<p>日時・会場</p>	<p>12月13日（水）17：00～20：00 @阿佐谷地域区民センター 12月18日（月）10：00～13：00 @産業商工会館 12月23日（土）14：00～17：00 @杉並第一小学校体育館 ※各回の終了前1時間程度、来場者同士の意見交換の場を設けました。</p>
<p>来場者数</p>	<p>12月13日（水）33名 12月18日（月）29名 12月23日（土）55名 3日間 計117名</p>
<p>開催の様子</p>	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%;">  <p>模型で説明している様子 @阿佐谷地域区民センター</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>パネルで説明している様子 @産業商工会館</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>来場者が自由意見を 貼り付けている様子 @杉一小体育館</p> </div> <div style="width: 50%;">  <p>来場者同士の意見交換の様子 @杉一小体育館</p> </div> </div>

1.1 オープンハウス会場での意見（3日間） ※対応職員による聞き取り（順不同）

- 計画には賛成。小学校移転にあたっては広く意見を聞いてほしい。プールは無くして音楽ホールを作ってはどうか。特長ある学校にしてほしい。
- 病院敷地周辺は実際に地盤沈下が起きている。
- 意見を聞く会が多すぎて職員が大変と感じる。同じように意見を聞くことが他校でもできるのか疑問。客観的に誰かが判断しないとイケない問題。
- 妥当な計画だと思う。何を反対しているのかわからない。

- 施行者3者で一から検討する場を設けてほしい。
- 他者の土地評価指数は出せなくても、区有地の評価指数は公表すべきではないか。
- よりわかりやすく説明できればいいと感じた。オープンハウス・パネルを中継で流して意見を貰うなど。課題の優先順位をきちんとつければ実行してもいい事業だと思う。
- これから入学する子の親としては、早く学校の新校舎を整備してほしい。いろいろ言う人がいるが、しっかり進めてほしい。
- 土壌汚染はあいまいにしているとかえって不安を招くので情報の発信が大事。
- A街区は、大手企業のチェーン店などは民業圧迫になるのでやめてほしい。他にない魅力的なものを。特徴のある本屋（文化のまちなのに本屋がない）、区の文化施設との連携など。
- A街区が新しくなるのをとても楽しみにしている。ホールなど発表できる場がほしい。新宿などの商業地とは異なる文化的なものがいい。
- 浸水対策についての説明で移転後の対策事例だけが記載されているが、現在地であれば対策が不要であることも説明してほしい。
- 引き続き説明会をやるべき。区長はこの事業の反対を公約に掲げて当選したのだから、反対の意見を重視すべき。選挙結果が区民の総意だ。振り返る会で見直しを約束している。説明など聞きたくない。
- 三者でやっているというのが怪しい。デベロッパーがかかわっているに決まっている。
- 杉一小は一等地なのに、移転先の病院跡地は低地で水害が起きやすい。医療廃棄物だらけ。学区域の端なので児童の負担になる。
- 土地評価について、権利者間で同じ増加率になるのは当たり前。
- 不動産鑑定士は依頼者の言いなり。実勢価格と鑑定評価額は乖離する。三人の鑑定士にチェックしてもらっても意味が無い。
- 修正係数がどの程度の影響を及ぼすのか、数値が知りたい。
- なぜ杉一小の移転に反対するのかわからない。自分は杉一小で窮屈で悲しい思いをした。そういう思いを抱えている人は他にもいる。
- 杉一小の歴史や文化は大事。移転してもA街区に杉一小を感じられるものを残すことができるはず。
- 新進会商店街でセットバックで建替えが難しくなるような方がいれば、個別にケアしてほしい。あそこの道路が安全になるのは非常によいこと。
- 小学校だけではなく、地域として、みんながよくなることが大事。そういった意味でも、この計画は防災や安全などにつながる大事な取組。
- A街区は文化を感じられる使い方、施設にしてほしい。ジャズストリートで毎回ステージを作るのではなく、人が集められるホールがほしい。
- 直接関係はないが、阿佐ヶ谷駅北口・南口広場の使い方も考えてほしい。人の溜まれる場所、ジャズストリートなどのイベントで使える場所になるのが望ましい。
- C街区を緑地にして弁天池とつなげてほしい。メタセコイヤを植えてはどうか。
- ブラスバンドの練習のために全室防音にしてはどうか。子どもは騒ぐ生き物なので

音が心配だ。

- A街区のにぎわいが吉祥寺のようになるのは嫌だ。
- 駅前に学校がなくてもよいと思う。
- 杉一小跡地は広くて使いやすいものになるとよい。
- 移転によって近くなる人と遠くなる人が出るのは当たり前で仕方がないところがある。しかし、移転によって学校がよいものになるならそのほうがよい。
- 道路が大事。幅員が狭くて今の家が建たなくなるなど実体的な影響が本当はあるのに、ほとんどの人はそういうことを経験しないので道路の重要性を認識することがない。
- 沿道緑地などで木が増えることはよいが、あまり高い木にすると管理が大変でお金がかかるのではないか。

1.2 意見交換での意見概要① (12月13日(水) 19:00~20:00)

- 振り返る会では、A案に戻すべきだという意見が多かったのに今日のパネルではB案ありきになっているのが気になった。強い反対があったのだから、A案もB案もフラットに考えるべきではと思った。
- 移転に賛成の人は子供のことを考えていないと聞いている。教育の視点がなくとても残念。移転すると良いことがあるのか教えてほしい。移転賛成の人が集まる会にも参加して意見を聞いてみたいし、保護者がどう考えているのか伝える機会を創ってほしい。
- 計画を変更することは困難なのはわかる。合意もせずに、一方的に変更することはできないことはわかっている。地権者や病院と話し合うつもりはないのか。地権者と協議をした結果できなかった、という話なら理解できる。
- 学校の移転を取りやめた場合、重大な違法行為、困難だというのは不親切。見直しに向けた行動もなく困難と断定されても納得できない。反対が多いのだから、区長が決断して協議してほしい。
- 行政側の人間、事業の中心になって推進している人がなぜいるのか、おかしいではないか。この場に相応しくない。不適切だ。
- 行政は「決まっている」と言っているが区長は計画を変えるという意味で当選している。ならば、住民投票をやればいい。
- 都市計画決定・事業認可したものは変えられない。決まっていることを変更することはできないのは正しい。計画の大枠を変えることはできない。
- A街区の区の持ち分約25%を使って、現地に小学校機能を残した複合施設の計画を考えてほしい。
- A街区に学校のアイデンティティを残す形をぜひ一緒に考えていきたい。できることはある。そういった議論を深めていくことが大切。
- A街区の小学校機能の案として、他の地権者の持ち分を含めて、学校を共同建替とすることができないか。また、共同建替でない場合には、体育館や音楽室等の小学

校の機能を残すことはできるのではないか。25%で足りなければ、他の土地を使えるように地権者と相談すべき。

- 共同建替えを関係者間で了解すればできるだろう。ただ25%で何を建てるのか。学校は建たない。
- 杉一小はあの地で148年の歴史の中で培ってきた教育プログラムや地域との関係性がある。そこを大切にしてほしい。また、学校が駅から離れることで、学区を越えた入学者が減少し、将来的に杉一小が無くなってしまふかもしれない。
- 情緒的なことはどうでもよい。C街区は軟弱地盤。A街区は高台だから安全。病院なので地中に何が埋まっているかもわからない。安全対策には多額の経費がかかる。A街区で建替えた方がよい。
- A街区に学校のアイデンティティを残す形を一緒に考えていけるはず。学校を現地に残さなくてもできることはある。そういった議論を深めていくことが大切ではないか。
- C街区に杉一小を建てた場合、運動場は広がる。以前、運動場が狭く、子どもの運動能力が低下していた小学校において、建替えの際に運動場を広くしたところ、運動能力が向上した事例があり、運動場の大切さを実感している。
- アンケートを一人で何回も提出できるのであれば、周囲にも呼び掛けたい。

意見交換での意見概要②（12月18日（月）12：00～13：00）

- 路線価をもとに再度試算したところ、区が13億2千万円損している可能性が高く、区の財産が毀損しているということは、区民として看過できない。参加したい方が参加できる場でしっかり説明すべき。情報開示してほしい。
- A案からB案に変更となってから6年間放置されてきた。検討期間が短期間であったことの原因がパネル資料に記載されているが、そもそもなぜ移転することになったかの理由になっていない。反省すべきとしているにもかかわらず、その後、どうするのかわからない。
- 移転先ではとてもじゃながい学校教育は持たないと感じる。100人の教員に聞けば100人が同じ答え自分は教員として何校も経験しているが、騒音のクレームへの対応は大変だった。校長・副校長が毎日登校したら真っ先に風を見て音の広がりを考えていた。校庭は狭いより広い方がいいが、校庭が狭い学校も経験している。教師の実力で、教育力でなんとかする。ブラスバンドが毎朝7時半からの練習では意味が無い。教育委員会はこの事業に反対しないのか。何も言わないのか。区の認識は甘すぎる。
- 学校は地域と一緒に教育をする。保護者、近隣、PTAが関わって作るもの。
- 変えることが困難だ、違反だと言って変えるつもりがないのなら、今やっている対話、意見交換は何のためにやっているのか。反対だと意見は言っても変わらないのなら虚しいだけだ。
- プロセスや住民への説明が十分ではなかったという話と、計画の良し悪しがごちゃ

まぜになっているが、両者は分けて考えたほうがよいのではないか。困ることが顕在化するという前提で話しているが、いずれも仮定の話、過去にそういう事例があったからそういう可能性があるというだけである。東田中で光化学スモッグが出たからといって、その原因は地盤の高低差によるものとは限らない。単純に高いか低いかだけで決まらない。逆に幹線道路沿いの排気ガスによる喘息は放っておいてよいのかという話にもなる。移転先で必ず光化学スモッグが発生するという事実はない。

- この会は誰が参加したっていいと思う。都市計画に詳しいのなら、ぜひお話を聞かせてほしい。教えてほしい。
- あたかも移転することが決まっている、だから納得しろ、と言っているようなもの。今日のパネルの内容を見ても、移転は決まっているから変えられない、という内容。移転することに反対だと区民が言っているのにおかしい
- 資料の中で、区が決めた、区が提案したとある。区とは誰のことか。区長なのか。山田区長、田中区長、岸本区長の誰なのかさっぱりわからない。
- 三者で合意をとるのが大変だというなら、私たちの声を地権者に届けてほしい。
- いつ、どこまで、何を変えるのか、聴いた意見をどうするのかをちゃんと区民に示してほしい。個別ではなく、公の場で、大きい場所で集会を早く開いて示してほしい。
- 明治の時代に一番良い土地に学校を建てたのだからそれでいい。40年後、50年後、あなたは生きていない。どうせ死ぬ人が考えることはろくなものではないから反対だ。

意見交換での意見概要③（12月23日（土）16：00～17：00）

- 参加者同士で話す、皆の意見を聞くとのことだが、区がどう思っているのか聞きたい。これまで説明してきた内容から進展はあるのか、区の考え方が聞きたい。
- これまでの振り返る会等に参加してきたが、賛成の声は聞こえてこない。この意見交換に参加している方で、賛成の意見があれば発言をお願いしたい。
- 区の考えを説明してもらうのではなく私たちの意見を聞いてほしい。
- 子どもの教育や地域の将来像についての話かと思いオープンハウスに参加した。しかし、学校を建設する街区の話や建て方の話ばかり。今の一年生が36人と聞いたがつらい環境だと思う。教育環境をどうしていきたいかという議論が無い。A案の最後のほうはそういうのが見えたが、そこから見えなくなったという印象。いろいろと知恵を出して、教育をこういう方向に向かわせるというものがあるべき。
- 資料の初めのほうのパネルでは敷地の南側にプールがあるが、後ろのほうでは無くなってしまっている。
- なぜ、区は区画整理事業の実施において個人施行という手法を取ったのか。学校が水害の危険性があるところにわざわざ移転するのはなぜか。学校からの騒音には防音壁を作って対応という案があるが、子どもたちにとってそのような塀に囲まれた

環境が本当に最善なのか。子どもにとって最善の環境をという観点がない。私がかかわった久我山小学校の改築の際には、建築家や教育の専門家等を交えて7年も話し合いが行われた。今後、100年使う学校の話なのだから5年程度の遅れはどうでもよい。じっくり話し合うべきだ。

- 2024年度から学校改築検討懇談会が実施されるスケジュールとなっているが、今の状況では改築懇談会で話し合う気にはならないのではないか。これまでを蔑ろにしたままでは気持ちよくスタートなどできない。
- 来年度からの検討については、学校の改築検討ではなく、学校のあり方検討等の色々な可能性を含んだ会の開催としてほしい。
- そもそもの施設再編の進め方に問題がある。金銭面等から合理的に施設を複合するというのではなく、子ども等の施設を使う人のことを考えて建てるべき。北東地区まちづくりの取組について、現計画を止めることは重大な違法行為となる等の脅しの論理でこのまま進めるのか。区はがんじがらめとなっている印象があるが、子どもたちのためという原点に立ち戻って、取組を見直してほしい。やはり、病院跡地は汚染の可能性もあり危険。埋め立てればよいというのは安易である。
- 防災は個人が基本というのは、確かにそうだが、区の施策としてどうしていくかは検討が必要だ。
- 小学校の病院跡地への移転は土壌汚染の可能性もあり、どうかと思う。しかも、低い土地であり、水害の避難場所としても不適切。子どもの健康や住民の安全・安心を考えてほしい。
- 土地区画整理事業を個人施行にする必要はあったのか。また、公式な区の決定を以って進められているのか。既成事実を積み上げられている印象がある。
- 土地区画整理事業に係る協定を結ぶ際、議会や区民への情報提供は行ってきたのか。
- なぜ、区議会を通さずにこれまで取組を進めてきたのか。何か裏があるのではと考えるてしまう。結局汚染の事実があった豊洲の例もあり不安である。
- 事業を進めることを区に頼んだ覚えはない。事業が決定したから仕方ないではない。民主主義には時間がかかる。色々なところに実際に足を運んで意見を聞くなどして、どれだけ時間がかかろうとじっくり決めてほしい。これまでのやり方で進めてしまうと不信感が残る。
- にぎわいというわけがわからないもので小学校が病院跡地に追いやられてしまっている。当事者の子どもたちにはどう説明するのか。地方自治は二元代表制である。区長が勝手に決めたことについて、あらためて構成の変わった現区議会で審議されるべきだ。
- 大雨で河北病院跡地が避難場所とならない場合には、どこが避難場所となるのか。何か計画はあるのか。
- A案、B案の比較検討の際に、B案での水害のリスクは把握していたはず。全体最適・長期最適の観点から、区はB案を決定したとのことだが、水害リスクの克服についてどういう検討をしたのか。
- 区長が代わり、納得していないことを言える場ができた。その声をしっかり聴いて、できない理由を挙げるのではなく、どうやったらできるのか考えてほしい。また、

資料のタイトルが「阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくり」となっているが、皆の意見を聴いていると小学校をどこに建てるかがメインではないのか。まちづくり等の言葉で濁さず、教育のことをもっと考えてほしい。

- この会は、行政としてどのような位置づけで実施しており、ここでの意見はどのように取り扱われるのか。
- 仮換地、個人施行の状況であるにも関わらず、この事業は正式に決定したものなのか。行政の中で決定したとして、議会を通さずに正式な決定となるのか。
- なぜ現地で建ててはいけないのかがわからない。移転するのは校庭が広くとれる以上の理由がわからない。数年にわたり区と話ができないなかで選挙があり、区長も議員も替わった。それしか民意を反映させる方法がなかったからだ。
- 意見交換やオープンハウスの記録はいつ公表されるのか。

1.3 付箋に書かれた意見（3日間）

<①「杉並第一小学校等の移転改築」カテゴリの意見>

- 杉一小、子供たちの為、広いグラウンド
- 杉1小がああ地にあるのは文化遺産です。大事にしましょう！
- 杉一小の現地建て替えを希望します。複合で屋上校庭でも構いません。
- 杉一移転しないでください。今の場所は聖地です。大切な場所
- 5～6年作業してきた職員さんのスタンスはわかりますが、それでもやったらいけないことは止めねばなりません。杉一を全面移転しないことに高度な頭脳を使ってください。
- 杉一小は歴史のある学校です。別の案も考えてもらいたいです。
- 岸本区長になりました。区民合意が出来ていない以上、合意が出来るまで立ち止まってください。見直しも必要でしょう。
- 閑静な住環境をつぶすべきではない！小学児童の声の質と生態を理解してください。住民は6年ガマンすればよいわけではない。バンド対応は全室防音が必要になる。
- C街区は不整形なので運動場は実質広くならない※行政が不整形な土地に手を出して失敗したのが武蔵野の土屋市政
- 現代的な発想で作られた新しい学校を期待しています。早期建て替えが望ましいと思います。
- 学校を移転する病院跡地の土壌を調査、除去等実施すると書いてありますが、実際の程度はわかりません。除染がひどい場合、除くのに年月と費用がかかります。学校の改築がいつになるか解りません。
- 杉一小は現地で建て替えして欲しい。
- 杉一小の現地建替を望みます。子ども達の20年30年後を思えば、病院跡地移転すべきではありません。

- A街区学校のみで使っても校庭がとれないことは明らか→なぜ民間と共同で学校建設が可能になるか→検討しても不可能。
- 固い地盤の小学校を軟弱地に加えて病院跡地（土壌汚染）に移すのは普通に考えておかしいと思います。
- 区民が使いやすい集会所を設置してください。（ゆうゆう館 etc）児童館も区民センターから移転してください。
- 河北病院跡地の土壌汚染が心配、土壌の入れ替えをするのに多額の費用がかかると言われている。3mで済むのかどうか。その場合の代替地はどうなるのか。
- 校庭の狭い学校が児童に与える影響について考えてほしい。子どもはのびのびスポーツできる場は学校しかない。
- 計画通り移転改築を行って校庭を確保した杉一小にしてください。
- 小学校は移転してはいけない。
- 教育を第一にすえて考え直すべし。

<②「区画整理、道路、みどり○自然」カテゴリの意見>

- 森が欲しい。
- 防災と医療の充実はもちろん、教育や緑豊かまちづくりを希望します。
- 全体的に年号を使わず西暦で統一表記してほしい。例：「40年度」→平成らしいが換算して考える手間が不要に。
- これまで学校を軽視して計画が進んできたのが問題。「子どもの権利」を考える区政なら学校優先に転換すべき
- 換地の土地の評価が不公平ではないのか？への回答が不動産鑑定士の意見を聞いているでは意味がない
- P16 土地評価の修正係数を数字で示さないと区民としては判断できない。
- 減少した緑を増成してください。緑多い公園に、区民のいこいの場に
- 学校敷地を広く確保するためにC街区に移転、日照条件は将来的に確保できる。
- C街区はもともと川である。湿地系の緑（生態系）を再生させられないか。
- 既存の植栽、新設の植栽の内訳がなく「できるだけ緑を残す」努力の具体的な姿が見えづらい。数値だけでなく、図示をもう少し詳細にお願いしたい。
- 阿佐谷北三丁目から緑の多い所は、善福寺川か妙正寺川公園位です。
河北病院跡地に緑の多い公園にして欲しい
- これ以上みどりをへらさないで！！車の侵入をやめる方向で区画整理を。
- 防災のためにも木、みどり、空間を活用してください。

<③「杉並第一小学校跡地の活用」カテゴリの意見>

- 杉一小跡地にアリーナが欲しい。
- 杉一小を含む教育・育児施設（官民複合で）にしてください。
- ディベロッパーはA街区を鶴の目鷹の目で狙っている！！地主さんを騙すのは容易

い。(日本はそういう国)なので、ディベロッパーが利用しにくい様に公共施設をデン！と置いておくのが得策。

- どこにでもあるような大手企業のチェーン店ばかり入ったような「にぎわい施設」は要らない。阿佐ヶ谷にしかない、この施設があるからこそ他所から人が来るようなものを造るのでなければ意味がない。そこを念願に知恵を絞り合っていきたい。
- にぎわいについての議論が可能な場の設定が重要。
- 「にぎわい」の再定義が必要かと思えます。サードプレイスのなみどりの空間、新しい緑のまちを作りたいです。


<④「A案からB案への変更プロセス・これからの住民参加のプロセス」カテゴリの意見>

- 居ながら改築には移転は必須。
- 欲しい施設をアンケートで。
- 不透明なプロセスだったのだから見直せる点は見直してほしいと思えます。
- 8/31 10/19 22 の会での区民意見がどうだったのかがこのパネルでは見えない。反対と疑問が高まっている。特に杉一保護者。現地建替は難しい、時間がかかるという。しかし、そうこう言っている間に何とか現地に建替る方策を全力で考えた方が早くないか？
- 杉一保護者、児童は現状移転反対が多い。彼らを納得させる案で学校を早期建替えるには現地建替しかない。
- 資料の工期スケジュールも見通し甘い。河北は建設も取りこわしも遅れる。
- 区は立派で字もぎっしりのパネルを並べ、区民はこんなオマケの「感想コーナー」のようなところに時間制限もある中、手書きで小さなふせんに書くことだけで「区民の声」とされるのは心外である。資料を精査し、批判し、間違いを指摘したい。区民の能力を軽視しているのか。パネルそのものに貼付できるようにすべき。区民センターロビーでは、このふせんすらなかった。
- 資料P15「区画整理事業、道路～」12に「エリアマネジメント」とある。「エリアプラットフォーム」もこれを引きつぐのか。これら団体については表2「オープンハウスについて」P19「これからの住民参加」には記載されておらず、優先度の高い別格扱いをしているように見える。P20「北東地区を考える会」とのつながり、継続性は？地権者主体で区有の杉一小まで含めた計画を進めていると感じている。
- 意見を出すのは疲れる。時間も使う。田中前区政は「区民の意見など聞かない」と公言していた。岸本区政は「区民の声を聞く」というが「意見は聞くが変えない」状態が続いている。施設再編でがっかりした人たちがそれでも阿佐ヶ谷・杉一小のため意見を言いに来てきている。(10月の会で発言した方もいた)しかし。言っても変わらないのに意見を出したい者は少なく、いたずらに疲弊し、絶望し「もういいや」となってしまう。そうすると再び田中氏のような区長を選び、区民自らが自治を放棄するおそれがある。
- なぜ区議会を通さずに地権者、病院、区(区長?)でこの計画を決定したのか。理

由は、後付けでいくらでも言えます。まず、ここで大きな不信感があります。明らかにになれば！

- A案→B案への変更、近隣の住民へのアンケート等、もう少ししていねいに進めて下さってもよかったのではと今日の表を見て感じました。
- 区民の声を反映させずに土地の交換を決めたのはゆるせない。
- A案の学校建設懇談会を持続させるべきだった。B案になって閉会したことが行政施策の誤り。
- 杉一小の建替に当事者の子どもの声と親の声を十分取り入れてほしい。
- 「対話」の区政の最もすばらしい事例として今、まさにとりくんでいる区長と市民にエールを。
- 対話になっていない。現地改築の話が多くて、移転がどうか意見しにくい。

2 アンケート実施記録

日時・会場	<p>①オープンハウス会場（16件） 12月13日（水）17：00～20：00 12月18日（月）10：00～13：00 12月23日（土）14：00～17：00</p> <p>②パネル展示（オープンハウスと同じをパネルを展示）（12件） 12月14日（木）～12月22日（金） @阿佐谷地域区民センター1階ロビー</p>  <p>③Web アンケート（26件） 12月7日（木）～12月26日（火）</p> <p>合計 54件</p>
--------------	---

2.1 アンケート回答者の属性

（設問1）あなたのことについて 該当するものをお答え下さい

- ① 杉並第一小学校の関係者（在校生・保護者・その他現在杉並第一小学校に関わりのある方）
- ② 杉並第一小学校に通学する予定の方・保護者
- ③ 杉並第一小学校の卒業生
- ④ 上記の①～③以外で阿佐谷地域にお住まいの方
- ⑤ 上記の①～④以外で区内にお住まいの方
- ⑥ 区外から阿佐谷地域に通勤・通学・通院その他の目的で来街される方
- ⑦ その他（ ）

（結果－設問1）

	オープンハウス		パネル展示		Web アンケート		合計	
①	1	7%	2	17%	4	16%	7	13%
②	2	13%	0	0%	1	4%	3	6%
③	3	20%	0	0%	0	0%	3	6%
④	3	20%	5	42%	7	28%	15	29%
⑤	5	33%	5	42%	9	36%	19	37%
⑥	1	7%	0	0%	4	16%	5	10%
⑦	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	15		12		25		52	

(設問 2) 阿佐ヶ谷駅北東地区におけるまちづくりの取組み(杉並第一小学校の移転改築、河北総合病院の移転改築・道路などの基盤整備等)を進めていることをどの程度ご存知ですか

- ① 詳しく知っている
- ② ある程度知っている
- ③ 聞いたことはあるが詳しくは知らない
- ④ 全く知らない
- ⑤ その他 ()

(結果－設問 2)

	オープンハウス		パネル展示		Web アンケート		合計	
①	3	19%	4	33%	10	40%	17	32%
②	11	69%	2	17%	12	48%	25	47%
③	2	13%	6	50%	3	12%	11	21%
④	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
⑤	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	16		12		25		53	

2.2 アンケート意見 (オープンハウス会場)

- 杉一跡地に何か目玉となるような施設が欲しい。あとは森
- A地区に学校建てるには、校庭狭すぎると感じます。地権者との話し合いの余地はあるのでしょうか。
- Cがいいのか、と言われても、もろ手を挙げて賛成ではない。地上の校庭と屋上の校庭など作れるのか。
- 伝統はあまり意味を感じられない。より良い方の選択とするしかない。
- 住民投票もありかと思う。
- A街区に公共施設を入れることは、地権者様もうれしいことではないですか？(固定資産税も減免されるし、補助金も期待できますし。)地権者様にきちんと提案してみてください。拒否される意味がわかりません。
- A街区、C街区は公共的に高い意味を持っているので、公開コンペを導入すべきと思います。
- 病院跡地の汚染について資料 07, 08 土壌汚染の区域が記載されていますが「※実際の土壌汚染の有無やその程度は今後の調査で確認」とあります。「病院閉鎖後に汚染調査を実施し、汚染が確認された場合は病院法人の負担で汚染土壌の除却等の実施を約束」とあります。汚染土壌の除去が、法人の負担(責任)は当然のことですが、汚染の程度で使えない土地である。あるいは除去に相当の時間がかかることになった場合、学校移転の時期が先送りされる可能性があります。このことの説明がないことが大変気になります。

- 地域にとって安全で住みよい街になること、ほこれる校舎で子供たちがのびのびと学校生活が送れること。
- 阿佐谷地域は杉並中心地で官庁街です。中杉通りが開通したことの時のことを考えると、その時立ち退いた人々のことを考えると街の発展に協力して下さった方々に感謝しております（願望と思い）
- A案決定後、B案にうつる間の説明不足が大きな原因のひとつではないかと思うので、今後信頼関係を築くためにこのような場を多く持つことが大切と感じています。（賛成反対も全てうけとめたほうがいい）
- 互いの立場を知ること、伝えられることで、その後のかかわり方が変わってくると思うので（主体的に区民が関わる）
- 私は、阿佐谷で生まれ、杉一小を卒業し、父が創業した商売の後を継続し、パールセンターという商店街で商売をしておりました。その阿佐谷なんとなく文化を感じられるこの街が大好きです。杉一小が校庭で大きくなり、子供達が元気で遊べる、そんな学校になることに大賛成です。又、杉一小の跡地にはぜひ、文化的な施設の建設をお願いしたい。どうぞ、この計画が実現できる様ガンバッテ欲しい！私も応援します！
- けやき屋敷の緑を元にもどして！
今年1年だけでも世界で多くの面積の森林が燃えてなくなっています。アマゾン河は干上がっています。
- 私達は30年前、杉並区の呼びかけで「中杉通街づくり委員」として集まりました。
①誰でも住みやすい福祉の街 ②今ある緑を守り、少しでも増やす緑の街。③にぎわいのある街の3本柱を決めました
そのすぐ後「東京都福祉の街づくり」に指定され、阿佐谷ジャズストリートも発展しました。生け垣条例もでき、SDGsにそった街づくりと自負しています。ところがこの再開発でけやき屋敷が消えてしまいました。再開発には反対します。
- やはり2～3m低い土地への移転は見直してほしいです（杉一小の）
- 防災面でも騒音にしても。歴史的に一番良い土地と思います。なぜ、わざわざ低い土地に移転させ垂直避難というのか？わかりません。私が非常識なのでしょうか？
- オープンハウスに配られた資料には「区が（表紙）」「区から（表紙の裏）」という表現が使われていて、決定過程が不透明でどのようにこの計画が決められたのか住民にはわからない。決定過程を区のだれが、どこの委員会？責任者等の名前等を住民が分かるように説明してください。
- 杉一小が明治期につくられた時は住民は子供たちにその地で一番良い土地に学校建設した。ところが、今回の河北病院の跡地へ移転することは、子供達の観点からすれば良いとは思えない。区は校庭が広くなると言っているが、それ以外のメリットを区は明言していない。
- 資料P5を見ると、すべて決定していると読める。説明会を何度もしているが、すべて決まっていると読める文になっている。住民の意見を生かすために説明会の目的をはっきりさせてほしい。

- 現在、5才と3才の子供が通学予定ですが、なんとかできるだけ早期にスムーズな新校舎建設をお願いいたします。最近では行政法規、環境規制も厳しくなっていますが、市民の全体感として何が適当かは法的な理由の原理としては市民の声がいかにあるかということなのでよろしくをお願いします。(特に親と子の利益を忘れずに、近隣住民より優先してほしいと思います)。
- 現代的な発想で作られた新しい学校に期待しています。親世代とも古いと感じて通っていた校舎をこれ以上使い続けるのは望ましくないと感じます。計画通り早期建て替えが良いと思います。
- 16時からの意見交換会に参加しました。このような会合をオープンハウスに付随させて(追加して)実施していただけて有難うございます。
- まず、「緑ゆたかなすまいのみやこ」としてグリーンインフラ、木、緑、森を残してほしいです。ゼロエミッションにするような取り組みを積極的に描いて欲しいです。
- 移転を前提としない懇談会であれば開催する意義があると思います。
- 本日の会で複数の意見が出されていましたが計画あり、スケジュール中心でなく、対話中心やる気を前提として原点に立ち返って議論して下さい。
- 小学校がこの土地で100年以上続いて存続しているという歴史を区職員はどのように考えるのか。”行政の継続性”というのであれば、小学校の継続性、文化の継続を大切にしていきたいです。
- 「第一小学校」という大切な小学校なので、非常に大切な文化をもつコミュニティの継続性を断ち切ることは二度と取り戻せないと思っています。校庭の広さとはとてとりひき／とりかえできません。
- 「資料P20；なぜ特定団体がつけた名称を公式に使いつづけるのか。
- 地域区民センターロビーのパネル展示は模型もなくわかりにくいし、ふせんもなく一般区民の声をすることもできず、資料集がないため持ち帰っての検証もできない。
- なぜ22日までなのか？少なくともアンケート提出期限までは展示すべきだし、13日の意見会で参加者の方が「ちゃんと周知する意欲があるのならばずっと区役所ロビーに置いておくべき」と言っていた。
- すぐ「HPで公開してます」というがデジタルディバイド配慮に欠けるし、スマホでこんな細かいPDF資料は読めないし読まない。
- PCで見ることができても情報把握と検証には紙版で自分で書き込む方が圧倒的に効率・効果が高い。ロゴフォームQRをアンケート用紙に掲載すべき。
- 今回「パネルを使った討議」を要望した「振り返る会参加者有志」です。しかし従来のオープンハウス形式とほとんどかわらず「対話」「データを元にした討議」ができず、がっかりしました。こんなもので「対話の継続」が終了され、来年は「まちづくりセッション」といわれては困ります。形式を熟考し改めて「対話の継続」を求めます。パネルも区の「反論」「言い訳」文章で並べ立てるプレゼン資料としての見やすさ、読みやすさの点でもひどい出来です。8月→10月→今回とどんどん劣化している。だからといって8月資料の内容が適切とは思えません。あれだけま

ちがいや不備を指摘されたのを今回全てそのまま再掲したのはありません。
しかも H28 年の図、プロセスから始めることで区の想定した「今まで知らなかった人にも気軽に」からはほど遠いものになっています。内容そのものとプレゼンの形式両方から資料の全部に朱入れを行いました。これを全て「アンケート」として意見提出します。「アンケート」として取り扱って下さい。(土地評価修正係数に関するご意見等、オープンハウスパネル内容全般に関してご意見あり)

○参加できなかったの、資料に基づき意見を述べます。殆どが、これまでに示したことです。逐条で書きます。

1. 概観

①全体の論調が、「始めに答えありき」である。従って、弁解型、釈明型となっており、本質に踏み込んでいない。

②新たな旅立には見えない。蓋然性として、これで終わりとしたい、いう意図が窺われる。

2. 各論

表紙：『「振り返る会」でいただいたご質問・・・にお答え・・・』とあるが、質問すべてが網羅されていない。また、再質問ができなかったり、質問機会が得られなかった者も多い。多くの意見が残っている訳だが、今後どう扱うのか？区は「多くの意を尽くしてやった」とはならない。

P 1 : 0 2 B 案 囲い文に、『防災性の向上』とあるが、具体的にはどのような内容か？杉一跡地を総合防災基地にするのか？

P 2 : 0 4 B 案の主な課題に、「改築が7年遅れる」とあるが、老朽校舎解消が大幅に遅れれば、地震等災害リスクが増大しないか？どのようにヘッジするのか？

P 2 : 0 4 A 案の主な課題に「病院と検討をする必要」とあるが、意味が良くわからない。公開空地の事か？だとすれば、“防災は喫緊の課題”であるのに空地を著しく減少させた当計画では、当初計画において確実にアセスメントしなければならなかったのでは？B案の主な課題に、「浸水や土壤汚染の懸念」とあるが、住民避難が困難になるという事か。完成が大幅に遅れるとか頓挫する可能性があるということか？

P 6 : ◆○項に『開校時期は5年程度遅れる』とのこと。比較対象が、A案、B案、新案、とすれば、“5年”とは“B”と“新”の差か？差が出た要因は何か？新案の着手時期は何時としたのか？A案は既に出来上がっている。即着手であれば、その差は？そもそも“A”から“B”変更で時間をロスしている。もし当初から新案をしていたら、差はどうなるのか？大きな問題である。でも区民の命には代えられないのでは？

P 7 : Q-3 『敷地は従前より小さくなる』とあるが、それによる問題は何か？『体育館やプールを校舎に取り込んでも』とあるがそれしか方法はないのか？それこそ「補助校庭」(檜屋敷)に設置すれば済む。

P 8 : Q-4 『安全・安心な学校づくりのため、対策が必要となり・・・』とあるが、当然のことではないのか？この自明の問題を盛り込んでこなかったことが問題では？防災は喫緊の課題としているからには、当初から折り込まずしてプロジェクト

の良否判断はできないのでは？

P10：道路、みどり、自然に関する対策は、何故玉突きでなければできないのか？他の方法はないのか？“みどり”の名のもとに焦点がぼかされている。その機能は幅広い。一括りで論じる訳はいかない。少なくとも“みどり”“緑地”“空地”と分けて論じないと。

P10：04 2-4 疑問① 『十分な周知、共有、議論がされていない…反省…』とあるが、このように複雑高度なプロジェクト、“反省”ではすまされないのでは？『議論が』されていないかった』とのこと。これまで指摘してきた数々の基本的な問題は、それが原因と言える。であれば、遅まきながら、これからやらねばならないのは当然。

P10：04 2-4 疑問② 「土地評価」の問題は、素人ながらにキナ臭さを感じてきた。公明正大な、是々非々チェックを願いたい。例えば、駅前一等地と三悪地と交換で間尺に合うのか？容積率変更のお手盛りも？

P13：07 『…喫緊の課題である…安全性の向上』とあるが、今回どのように反映されているのか？そのために屋敷論をそのまま残せば、容易に多角的効果（癒し、教育、防災…）が得られた筈。費用も節約できた。何故そうならなかったのか？

P15：11 地権者の思いを汲んだ、ということか？であるなら、何故病院より区民生命の方が大事であることを説得しなかったのか？しかも、先代は長きにわたり森を維持したい思いできた側聞する。

P17：01 『…跡地の活用』とあるが、“活用”との表現は不適切ではないか。既述のとおり、玉突きという総合システムの主要部一部が未定では、良否判断ができない。“活用”と言うような安易な表現で、学校を三悪地に追いやって良いものか？

P17：03 『検討して行きます』とあるが、そんな悠長な話ではない。そもそも手順前後ではないか？また、誰が“検討”するのか？前田中区长は、議会で“民”だから何に使うか分からない」と答えた。あれは嘘？

P19：02 『住民参加』とあるが、今や手遅れではないのか？今まで袖に振ってきたのに今更。

それとも課題解消のチャンスがある、ということか？

P20：08 『A案からB案への変更プロセス』 今回のベーシックな重要問題である。問題は“プロセス”より、判断内容である。記述には見えない。読みにくくもあり、別途これだけの説明会・討論会を開催願いたい。

2.3 アンケート意見（パネル展示）

○田中区政を選挙で否定した。従って区民の意見は杉一移設反対。

○今回、区民センターで知ることが出来てすごくよかったです。ゴミ問題とかにも関心があるので、今後そういうことも知れたらとてもうれしいです。

○少しずつ減ってきているとはいえ、おもしろい個人商店が多いのが阿佐谷の魅力

であると思うので、極力駅前等もチェーン店の並ぶビルとかよりも例えば下北沢のように若い人もお店が出しやすいようなシェアスペースなどがあると良いのではないかと思う。個人的には借りやすい店舗兼住宅のようなものもあるとすごくよいなと思います。”

○ヘルパーとして、利用者の方を河北へ通院同行して差し上げることがよくあります。今後も車いすやタクシーでの通院が行いやすい状況だとありがたいです。このパネル展示をみる限り、安全に配慮したいきとどいた計画だと感じました。今の区長は素晴らしい方なので、今の区長の下での計画実現は信用できると思います。

○杉一小は耐震建築にしたのでは？なのになぜまた費用をかけて移転するのでしょうか？

○8月と10月の「振り返る会」で少なくない区民から疑問が呈されたり、誤りが指摘されたことが修正されずにそのまま再掲されている箇所が散見され、「追加資料」も”移転は止められない”との説明を繰り返すものであり、「振り返る会」での区民と区の話し合いは何のためだったのか。岸本区長の唱える「対話の区政」とは程遠いものになっているのではないかと驚きを禁じえません。

オープンハウスや区民会館での展示にわざわざ足を運ぶのは、なにがしかの問題意識や疑問を持っていてそれに対する解を得たいと思っている人たちが主であろうと考えますが、区が計画の経緯や詳細をよくわかっていない無辜の区民を謀(たばか)って、問題のある計画を嘘で糊塗し、そのまま進めてしまおうとしているようにしか見えません。区の姿勢は区民に対して甚だ誠意に欠けるものと言わざるを得ません。このような展示で一方的に区側の説明を提示するのではなく、広く区民に開かれた話し合いの場を設定すること。一定の合意に至るまで根気よく話し合いを続けることを強く希望します。

○住民の多くが当初のA案を希望し、杉一小の移転に反対しています。住民の意向、民意(岸本区長)を尊重してください。A案からB案への変更が密室で行われたように思います。住民の意向に沿った決定が行われなければ「住民投票」で決定して下さい。

○杉一小の子供たちにきちんと説明を求めます。当事者である杉一小の子供達への対応をおざなりにしていると感じています。阿佐谷の未来を担う子供たちを蚊帳の外にするのはやめてください。

○12/13の説明会では把握しきれなかったが、非常に分かりにくい構成だと思う。最初に出すべきはこれまでの経緯ではなく、現行の計画とその中のどこにこれまでの意見が集まっているのか、これから区民の意見を取り入れる部分、パネルを見せ説明し「何について意見を募っているのか」を明確にしなくては区民が「参画」するためのプロセスにならない。

・2017~2018年ごろの(しかも平成表記)けやきプールがまだあるような計画図を最初に出されても混乱する。B街区はもう決定しているのだからそれを前提にして表示しなくてはいたずらに混乱をまねく。現状を踏まえた説明のためには模型が必須。12/13の会での「ふせん」も区民からはその場で鉛筆書きで感想程度を書かせる感じで不公平だと思った。区の出している計画に参加者が意見を出すために

は、パネルそのものに指摘をし、そのことを記録に残せるようにすべき。

・さらにパネル展示にはふせんパネルもなく、アンケートだけ。今回オープンハウスの案内に「区民同士の対話」とあっておかしいと感じたが、よく考えると、他の区民の意見や知見をオープンにし、私の意見も知らせたいと考え直した。そのためアンケートを区に提出でなく、この場で意見を表出したい。

・期間中に改善できる点は改善を求める。(アンケートはこまめに回収されるのだろうか?)”

- 「40年度」に学校完成と書かれていたので随分先だと思った(2040年?!)が、もしかして平成40年?! 古い資料なのですか? 区民センターの移転も終わったことなのかこれからまた移転するのか? わからない。
- パネル展示を拝見しました。詳しく説明いただいて状況がわかります。このような取組みを続けていただけるよう、お願いします。
- A案からB案で、区議会での審議した内容を公表してほしいです。杉一小跡地に何が建つかわからないのに、移転が決定している理由も教えてほしいです。
- 阿佐谷の街風景をかえないでほしい。第一小の歴史、駅北側の景観は阿佐谷にとって貴重なもの。人の住む街づくりは人々が生活する中で少しずつかわっていくことにより、住みよい安心の空間ができる。杉一は現地点でたてかえて。借地料年間2億円の根拠は?

2.4 アンケート意見 (Web アンケート)

- 以前、地域区民センターが移転する前には図書コーナーがありました。移転後の区民センターでは図書の扱いがなく阿佐ヶ谷図書館、中央図書館より身近に本に触れられる施設があると思います。
- けやき屋敷は駅から見ることができ、阿佐ヶ谷のイメージを作っていた。伐採は残念。小学校と河北病院の敷地の問題は、河北病院の院長が前区長の親友という時点で捜査の手が入るべき。区の財産を安易に民間と交換しないで欲しい。土地は立地が大切。河北病院との交換は区民にとって損で、まともな人だったら拒否するレベルです。避難所にもなり、未来を担う子供の通う小学校は最善の場所に作るべきです。
- 現在のプランに決定される過程には、区民への告知やPR という点で問題がなかったとは言いが、再開発の内容自体は理解できる。A街区がどこにでもあるよう陳腐な商業施設にだけはならないよう区民の声を吸い上げて欲しい。
- 説明会などは、声の大きな反対派の人の発言ばかりであり、あたかも全員が反対しているような見え方をする。声なき地域住民の意見をしっかりと汲み取ってほしいと思います。私は賛成です。
- [アンケートについて] ログフォームの提出は1回だけなのか? と、12/13に会場で区職員に聞いたが、わからないと言われた。そのくらいの仕様は知っておくべきでは? 前回の「振り返る会」は2回あったのにログフォームの提出は1回しかで

きない仕様になっていた。書きたいことは項目ごと多岐に渡る（例えばこのような意見の集め方ひとつとっても）、字数制限も2000字なので（総合計画パブコメはパブコメなのに1000字でひどかったから、それよりはマシだが）複数回出せるようにすべき。そしてスマホ版だとロゴフォームの文章一行表示はなんとかならないのか。段落がつけられない。2000字を一行で書く人はいないし、読み返すことができない。1回しか出せないことについても、デバイスを複数使えば出せるのだが、それは提出する人に有利不利の差別になる（複数持っている人は有利）し、紙なら何回でも出せるのだから（それも会場に近い時間があるか、で差別が生じる）。複数回出せるようにすべきなのは、意見を平等に提出できるようにするためだ。これからこの文章を投稿するが、その結果、2回目の投稿はできるのだろうか。それもわからぬまま、とりあえずこの意見を書くために機会を一度使ってしまった。意見募集に当たっては公平さと透明性、提出の利便性をよく考えてほしい。本気で意見を集めているのか。

- ご意見を失礼します。私は河北総合病院で生まれ、30年以上阿佐ヶ谷に在住しており、現在も阿佐ヶ谷を愛している地域住民の1人です。大変申し訳ございませんが、私は再開発を反対されている方の気持ちが全く理解できません。街は歴史とともに変わって発展していくものだと思いますし、緑や環境の大切さがわからなくはないですが、今のままの阿佐ヶ谷を残しても街は発展しないですし利便性も人の流れも何も変わらないと思います。そもそも、あんな駅前近くに小学校がある方が不自然に感じますし、あのような駅前のアクセスの良い土地は商業施設に活かすべきだと思います。私の自宅の近くにも小学校がありますが、騒音や砂埃など全く気になりません。私は地域住民ですが、阿佐ヶ谷にはもっともっと発展してほしいと思いますし、今のままの北口に西友しかない阿佐ヶ谷を残す方が悲しいですし、もっと発展して変わってほしいと考えています。周囲の阿佐ヶ谷地域住民にも話を聞きますが、私の周りには再開発に反対している方は一切おらず、むしろ新しく生まれ変わる阿佐ヶ谷の街並みを楽しみにされている方ばかりです。ですので、杉1の跡地にも、自慢できる立派な商業施設、なるべく高いビルが誕生するのが楽しみです。阿佐ヶ谷はお隣の中野に比べて広い土地が少ないからこそ、今回のような移転に伴う広い土地は大切に再開発に活かしてほしいですし、中野のようにタワマンなどの再開発が進み街が発展していくことに期待したいです。
- 未来の子どもたちが健やかに育つことや魅力のある阿佐ヶ谷にして欲しいと思っています。今回のような説明をじっくり聞けて、安心しました。前区長の時代には、情報が足りずに不信感が少なからずありましたが、区長も代わったからなのか、丁寧な説明、模型もあり近隣に住むものとして、安心とこれからのまちづくりに期待を持つことが出来ました。ありがとうございました。
- 2025年に開校150年を迎える、杉並区で一番古い小学校（明治8（1875）年4月開校）。ナンバースクール一番が示す通り。単なる公立小学校でなく、阿佐ヶ谷地域の象徴ともいべき小学校、杉並区を象徴する学校。記念すべきその小学校の改築という・再出発に、何故あって、区は情報非公開の汚点を被せるのか。（公開できないのであれば、密約と言わざるを得ない）なぜ密約の汚点を被せるの

か！！まったくもって許しがたい。こんな環境で本当に子どもをまっとうに育成できるのか。河北病院跡地への移転に関し、指摘する瑕疵に対して、十分な対応策を講じると区は言うが、そもそも、対応が必要な場所に学校を移すことが、根本的に間違っているのである。教育に対する冒とくであり、学校軽視の極みである。150年前に地権者が、この辺りの高台、神明宮当時は天祖神社?、地権者宅について、3番目の高台を学校に提供したという。それが150年後にも言い伝わっているのである。当時の教育、小学校に対する地元の尊敬の念がはっきりと見えるのである。それをいまだに言い伝え、感謝しているのである。今だってそうだが、今後の100年150年後にも、令和の杉並区民はこういう誤った判断をして、教育に対する尊敬をまったくないがしろにしたとを言い伝えなければならない。そんなことは、勘弁してもらいたい。その判断は当時の区長、行政職員の責めに帰するものである。その代替え策が「にぎわい」だと。にぎわいが150年継続するのか！学校は間違いなく100年150年継続する、して来たことを検証できる。あまりにも浅はかな開発ブームに乗った、理念なき、短期的・近視眼的、未来の杉並区民に申し開きできない、愚策と言わざるをえない。（150年に及ぶ素晴らしいアイデアだというなら、血判状を示してみよ。）もう一度A案に立ち返り、小学校の理念を振り返り、何よりも現役小学生だけでなく、未来の生徒を巻き込んで、教育主導で再検討することをお願いしたい。（まちづくりにはめ込んだのは失策）そして、議会をも巻き込んだ大きな議論で、杉一小の未来を語りたい。文科省が示す「学校施設整備指針」は校地環境、1. 安全な環境として、冒頭3項目に、（1）洪水、（略）、地滑り、がけ崩れ、陥没、泥石流等の自然災害に対して安全であることが重要である。（2）建物、屋外運動施設等を安全に設定できる地質及び地盤であるとともに、危険な埋蔵物や汚染のない土壌であることが重要である。（3）危険な高低差や深い池などが無い安全な地形であることが重要である。また、敷地を造成する場合は、できるだけ自然の形を生かし、過大な造成を避けることが望ましい。2. 健康で文化的な環境（1）良好な日照及び空気を得ることができることが重要である。（2）排水の便が良好であることが重要である。（3）見晴らし、景観等が良好であることも有効である・・・・見事に大方が抵触するように見える。

- 移転先において、現在の杉一小学校で行われている様々な活動が同様にできることを約束してください。そしてクレームにより子供たちの活動に制限がかからないことや周辺への挨拶回り等で先生方の業務負担を増やさないことを絶対に約束してください。誰かに負担を押し付けるのであれば移転は再検討してください。・今まで移転先周辺の住民に丁寧な説明を行っていなかった(ビラ配りのみしか行ってない)ことは大変驚きました。今まで6年間、一軒一軒住民の説得に時間を当てるべきだったと思いますが、そういうことをやってこなかった区の甘さに憤りを感じます。今からで良いので一軒一軒回ってください。訪問した成果を振り返る会参加者へ公表してください。反対がいれば、移転は再検討してください。・周辺保育園にも十分説明してください。・移転先にも借地があるようです。年間いくら支払うのか公表ください。

○[杉一小のことは生徒児童の声を聞いて決めてほしい] 本計画について、8月、10月の「振り返る会」と今回のオープンハウス12月13日、23日、車座にも参加しました。この間多くの方がもっとも印象に残ったとしているのは、10月22日の杉一小在校生の「私たちのことを勝手に決めないで。子どもの意見も聞いてください」と発言したことでしょう。多くのオトナの区民、特に阿佐ヶ谷地域の住民は田中前区政では「意見を聞いてもらっていない」と感じ、岸本区政のもとでの「対話」に期待し、自分の意見や見識を伝えようとして、各会合に参加してきたと思います。しかし区は「やってきたことは変えられない」「説明をする」ばかりでした。説明とは、決まったことを一方的に述べることにすぎません。8月に保護者の方が「丁寧な説明はもういい」と、発言されましたが、実際は「説明」どころか、区民・保護者を「説得」して現行計画を承認させようという意図しか見えず、回を重ねるごとに参加者からは失望が高まっていました。そこに小学生当事者の「勝手に決めないで」でした。みんながショックを受けました。オトナの区民以上に、杉一小と阿佐ヶ谷(子どもの生活圏はずっと狭い)に関わりがあり、多感な時期の生活時間の多くと学習環境、経験の機会を左右される、もっとも重要な当事者である子どもの声は、私たちおとな以上に重視されるべきだ、と、思い知らされました。岸本区長も「生徒の意見を聞きたい」と応答していました。しかし12月13日の車座において、参加者からの「子どもの意見を聞く会はやったのか」という質問に対してまちづくり担当課長は「えっ?」と完全に絶句。「関係各団体との懇談」を連続して行う中、子どものことをまったく考慮していなかったとしか思えません。23日の会では杉一関係者でないにせよ、何人もの区民から「この計画には教育環境の視点がない」「子どもにとって最善のものを」と意見がありました。これまで教育の担当者からは移転について納得のいく理由が示されていませんし、保護者の質問にもまともに答えていません。教育の視点を、とみんなが発言しているのに、担当者は車座に入ろうともしませんでした。この計画は田中前区政時とはいえ、学校関係者を中心とした改築検討懇談会が真摯に考えていた現地建替え案が「病院の移転があると知ったから」と勝手に移転が決められ、批判の多い「病院跡地」に追い出され、一等地である杉一小の場所の大半を地域の有力者に譲り渡すという地区計画に、学校がいつのまにか巻き込まれたという経緯。細かいことは子どもにはわからなくても、杉一小に通う生徒、卒業生に「なにか悪い事情」で移転させられた、というマイナスからはじまる学校の歴史になってしまいます。これまでに何度も、23日にも「子どもにどうやって説明するんですか」とオトナたちが言っていました。「こうやって説明します」と返ってきたことは一度もありませんよね。「阿佐ヶ谷北東地区まちづくり」にさまざまな疑念があり、それが解消していない、どころか次々と問題が明るみに出ているのは事実です。私たちはオトナとして一生懸命学んで、調べて、問題を指摘しています。オトナの作った矛盾を、学校という自治体にとってもっとも大切にすべき場所に背負わせないでください。杉並区は「子どもの権利条約」を作るんでしょう?意見を言う、聞いてもらう権利があるはずです。まずは速やかに子どもたちとの対話の場を持ってください。「どうやって説明するのか」オトナにも見せてください。今の対応のままでは、子どもた

ちはオトナを信用できなくなってしまう。(以下は非公表):PC から投稿しているが、この回答欄が一行表示なのはとんでもなく使いにくい。そのことは毎回書いている。スマホ版だけかと思ったら、PC でこんなフォームなのはありえない。いい加減改善してほしい。適当に感想を書いているわけではない。推敲して時間を使って書いている。

- 私は公開されたほとんどの資料は閲覧し、8/31、10/19・22、12/19の集会、12月の3回のオープンハウス等、ほとんど全てに参加してきました。11/10には杉一小保護者有志として要望書を提出し、12/13には区長と面談の機会もいただきました。その中で、感じたのは、区長も区職員も、現計画の合理性のなさ、決定当時の検討の問題について、既に十分認識しているということ。ただ、6年前の区の計画としての決定。及びそれ以降の多くの関係者との合意事項を変更するのは嫌だということ。だから区長や区民に敢えて正確な情報を開示せず、変更をあきらめさせようとしている。ということです。行政にとって継続性や関係者との信頼性が重要であることは当然で、それがあから信頼して行政を任せることができます。しかしながら既に関係者の多くが計画の合理性のなさを認識している中、その継続性のみ固執し、不公正な進め方をするのは、決してよい行政とは言えません。ある区職員は「区長が変わったからといって、いちいち行政が変わっていたら、行政はやってられない」と発言したと聞きました。「行政マンとしての矜持」としては立派なことと理解しますが、これは区民に選ばれた区長や区議会議員を否定し、区民をも否定する発言です。「誰のための行政か?」ということは今一度考え直してもらいたいです。全ての集会等において、小学校の移転に肯定的な意見はほとんど聞かれませんでした。区の防災や医療体制の拡充には理解をし、計画の大枠には同意しつつ、ただ一点、小学校機能の移転に異論を訴える意見ばかりです。もちろん集会に出席して意見を言わないだけで、小学校の移転に肯定的な人がいることは事実です。ただ、その方々は一部の利権関係者だったり、「子供の教育のことはどうでもいい」「建物が建て替わり街が賑やかになりさえすればいい」「どうせ水害なんか起こらない」「内容はどうあれ一度決まったことなのだから進めるべき」「対話なんて言っているから計画が進まない」と言っていて、とても子供の教育のことや未来の阿佐ヶ谷・杉並のことに真剣に向き合っているようには見られませんでした。区はこの方々を多数の区民の意見、区民の総意とみなし、区の計画に反映しようとするのでしょうか? 私は現計画による利益を期待し、計画を支持している人達の利益もある程度担保し、この人達の合意を得た上で、小学校機能を現在地に残す方法があるのでは?と考えます。またそのために行政と区民、区民どうしが知恵を出し合い、合意を形成することが「対話の区政」だと思います。それには時間も労力もかかることですが、それを区民が選んだことは既に結果が出ています。私が区職員の方々にお願いしたいのは、「どうか区長を支えてあげてください」ということです。前区長の過ちを現区長が責任を負い、行政や区民らの板挟みになって苦悩する区長の姿は見ていて心痛いです。行政の経験もなく、区内に業界団体等のバックボーンを持たない区長は、みなさまの協力だけが頼りです。これまで区長は区職員の方々の立場を尊重し、時には遠慮して仕事を進めてきたと思います。で

すが区民に選ばれたのは区長です。区長の判断を執行していくのが区職員です。区長や区民には正しい情報を開示し、計画の一部見直しの可能性を検討してください。そして「その検討をする」ということ自体の区長の決断の背中を押してあげてください。どうか宜しくお願いします。

- 学校の移転の必要性は本当にあるのか？地権者の利害に反しない程度でやり方があるのではないかと聞いている。元々は田中前区長が間に割って入ったものだと聞いている。その上で移転が必要なら現区政の観点でその必要性を説明すべき。
- 跡地に何が建つか決まっているのに、移転することだけが決まっているその不透明さに怖さを感じます。せめて今後は、跡地に何が建つのか、工事会社はどこなのか、工事計画等をしっかりとオープンにさせていただきたいです。オープンハウスをはじめ、区民との対話の機会を設けてくださった岸本区長には感謝！ですね。
- ①A街区をディベロッパーの食い物にしない策を周到に練るべき。先日、杉一小の校舎に入ったところ小規模学校。なので複合にして現地建替可能。私は阿佐ヶ谷では他所者だが日頃から日本のディベロッパーの横暴に辟易している。かつて代官屋敷があった由緒ある土地にディベロッパーが入り込むのは許せない。②地区の東部は住み続けられる環境にしておくべき。逃げ出したくなっても環境悪化したら売却も困難。そういう理由でC街区への杉一小移転は大反対。③C街区は極力空地にしてハコモノを建てず減災/防災機能を高めるとよい。再緑化するとしたら湿地系の植物をもってきたら如何か。
- 阿佐ヶ谷駅北東地区のまちづくりの取り組みに賛成です。このまちづくりの取り組みを速やかに、実行してもらいたい。
- [これからのプロセスについて] 8月、10月、今回と参加してきたが、だんだんひどくなっている印象。特に資料の提示のしかた。8月はまだ基本的なことからではあったが(とはいえ2018年時点のものなどからはじまり、わかりにくい)、10月、12月は区民意見にムキになって反論しようとして長文を並べている印象。おそらく8月以降、こんなに区民が具体的に批判してくると想定しておらず、その特定の批判にだけ対応しようとしているのではないかと。12月は「これまで知らなかった人」にも来てほしい、と言っていたが、こんなパネルでは最初から理解できないであろう。しかも8月10月に区民側から問題視された・水害のリスク・小学校の近隣問題・2017年の改築検討懇談会案を覆した経緯など、肝腎な疑問に対しては具体的な回答がまったくなされていない。区民からは「こうした資料を出してほしい」「数字はどうなっているのか」という要求も多数あったが、ほとんど公表されていない。たとえば10月に「桃園川第二幹線の対応が事業者である東京都の想定は50mm/hなのに、なぜ70mmになっているのか」についても70mmである資料は出していないし、「換地について路線価基準ではどうなのか、算出条件だけでなく係数を出してほしい」も回答されていない。もっとも停滞しているのは保護者から大きな懸念が集中した近隣騒音問題である。10月の「努力で」という回答もひどかった。保護者や教員経験者といった人たちから「対応するのは教師・職員、子どもには遠慮をさせ、近隣の人にも我慢しろというのか」といつせいに反論があった。しかし今回の資料でもなんら真剣に対策が考えられた様子はない。そもそも「移転

してよいこと」を、区は「校庭が広くなる」程度しか上げていない。8月以来、今回の資料でも「周囲が静かな環境」と書いているが、大きな音や声を出す学校が「静かな」場所にある必要はあるのか。特にブラスバンドのことが言われていたが「音楽室を防音に」と言っても、パート練習では一般教室も使う。保護者の方から聞いたが、朝7:30から練習。また、チャイムはどうしようもなくうるさい上に、5分休みならその前後に鳴る。自分の学校時代を思い出したが、チャイムは一日中鳴っていた。常識である。近隣には高齢者や、夜勤のひともいるし、特に赤ちゃんは寝たと思ったらチャイムでは耐え難いだろう。こうした具体的問題に対して、きちんとした回答を示さず、特に学校に対して誠実に向き合ってきていない。それでいて「三者協議で決まったから」「道義的に変えられない」「協力してきた人を裏切ることになる」「意見を聞いて変えるというわけではない」と「変更は困難」と主張するばかり。つまり学校や住民よりも地権者を優先したいというのか。換地が不公正ではないか、というのも、そうした姿勢から疑われるのである。これからのプロセスについて「改築検討懇談会」「まちづくりセッション」と書かれているが、別のページに「エリアマネジメント」「エリアプラットフォーム」とあり、区はここに決定権があるとして、この特定の人たちだけに諮って進めていくつもりなのではないか。そもそもどうして河北の建て替えに杉一小が巻き込まれることになったのか。「にぎわい」のために学校をわざわざ移転させる必要があるのか。道路事業でも施設再編でも、区民との意見交換という場を設けると、参加者のほとんどが反対している。しかし「対話」は終わったとして「シンポジウム」という壇上から話を聞かせるだけの集まりに意向し、その時には反対意見についてはいっさい触れない。阿佐ヶ谷でも同じことが「まちづくりセッション」で起きることをおそれている。10月にも「対話の継続」が結論であり、参加者は次の対話の機会を待っているはずだ。勝手にまとめてシンポジウムなどを開いて、来年度はなにごとにもなかったかのように事業を開始するようなことはやめてほしい。岸本区長は「杉並の奇蹟」と呼ばれて全国的に有名になったが、杉並区が先進的な住民自治の行政を実行できるかどうか、期待と注目が集まっている。本件は田中前区長の旧弊な縁故政治で決まった計画であるということも区外にも広く知られている。阿佐ヶ谷という杉並の顔の大きな事業を少しも動かすことができないとしたら、全国の「杉並に期待」している人たちは失望し、住民自治は絵に描いた餅だという評判になってしまいかねない。

- ① 中杉通りに面し、校庭の狭い小学校の病院跡への移転はとても理にかなった良い内容だと思います。以前、現在地で屋上に校庭つくるという案があったが都心部ならいざ知らず杉並でどうしてと思ったことがあります。今回の案ではスペースも確保し地面に接した校庭となっていてとても安心です。②杉一小の跡地をどうするのかという点が「駅周辺の賑わいの創出」という抽象的な表現になっているのが様々な憶測を呼んでいるのではないかという気がします。もう少し行政としてどうしていくのかという点を打ち出していただければと思います。例えば緑の中杉通りの景観を活かし、文化の街阿佐谷の文化性を高め、子育てや若者のスタートアップを支援する機能を充実し、住宅都市杉並の価値を高める施設にしていくと

いうイメージを出していただければ多くの区民も理解すると思います。

- 〈困難を乗り越える意志が感じられない〉12/13の意見交換会に参加し、発言しましたが、うまく話せなかったので、再度文章化します。・オープンハウスというか、パネルにしてくれと12/7「振り返る会参加者有志意見交換会」で要望した。これまでのスライドは嘘を指摘するまもなく消えてしまう。たとえば「ハザードマップで河北病院の周辺は黄色、少し水色」という明らかなねじ曲げ（実際は広範囲に水色。ハザードマップは誰でも見られるのに、なぜこんな虚偽を）。パネルを指差しながら区民同士も話したり、間違いを指摘したいという趣旨だった。・他の参加者の方が指摘した、高井戸での総合計画オープンハウスでのまちづくり課長の発言「人（区長）が変わるたびに換えられない」について。それは田中区長の方針を維持する、と言っているのと同じ。個別の計画だけでなく「住民の声を聴く」という方針に杉並区は変わったはず。そもそも住民（人）は変わっていないし、地区計画説明会からずっと移転はおかしいと言っていた。今度こそ住民の声を聴くことが杉並区の方針ではないか。阿佐ヶ谷という杉並区の顔で、対話でつくる新しい区政をやって結果を出さなくては、なんだ、前と同じじゃん、と見られる。・今のままでは杉一小関係者からC街区移転の納得を得ることは不可能。計画変更は困難というが、こっちの方がよほど困難。費用対効果というか時間（タイパ）でいうなら、C街区移転に固執していたらいつまでも学校は改築できない。区の仕事は学校をよくすることが第一だ。こんな無益な「説明・説得」をする暇があったら、A街区に学校建てる「困難」を解消する努力をしてほしい。・今のままC街区移転では杉一小に禍根を残す。これまでなら知らないまま移転してたかもしれないが、私たちが広めて騒いだせいと言われても、もう保護者、生徒も、「移転計画は学校が変なプロセスで悪い土地に追い出される」ものだと知ってしまった。年月が経てばそれも忘れられるかもしれないが、今もし移転したら当分杉一小はイヤな気持ちだと思う。・意見交換会で「コンサル」と言いながら「一区民として」と発言していた方はいかがなものか。コンサルとは「北東地区まちづくり」「エリアマネジメント」など、この計画の推進をコンサルティングした立場。それを「区民として参加してくださっている」と擁護した課長もおかしい。こうしたヤラセで今後も計画を進めるのか。・「有志」意見交換会で区は24年1月末にはなんらかの会合を開くと明言した。しかしそれが「これまでの意見をまとめたシンポジウム」として、上からの発表に帰結することを懸念する。これまで区長、区政と区民の意見はまったく噛み合っていない。要求した回答も得られていない。これで「対話は終わり」とされたら、区民の真摯な意見はなかったことにされてしまう。

「モノ」から「ココロ」へ、社会が求める豊かさが変化していく中で、近辺に住む方々の心が豊かになれる場になるとよいと阿佐ヶ谷住民として思います。地域文化を感じ、芸術や人々が楽しめる催しに触れられること。また、そういった場における内容を、地域の人同士が共に創り上げていくことで、地域の人を知り、共助につながり、防災にもつながってくると思います。家族や会社、町会など、従来のコミュニティが希薄化してしまっている今こそ、文化をを媒介とした地域コミュニティが生まれる場が必要だと、切に感じております。色々と大変かと存じます

が、地域にとってよい未来につながることを願っております。

「振り返る会」、オープンハウスの開催、ありがとうございます。区が、これまでのプロセスに問題があったことを認め、住民の声に応じて少しずつ資料が開示し、説明をしてくださっていることに感謝しています。これも、新区政に変わったからこそできたことです。今後の岸本区政に期待するものです。①問題があったプロセスは、依然として明らかになっていません。2016年に決定したA案が、急にB案に変わった経緯は、全く明らかになっていません。資料p.5に「本計画は、区から地権者・病院運営法人に対して、杉一小の病院跡地への移転と、周辺の道路基盤整備、新たなみどりの創出・保全の取組等を一体的に行うことを提案」とありますが、この説明のニュアンスは毎回変わっています。どのような経緯だったのか、事実をもって説明してください。また、田中良前区長の著書には「…しかし、「けやき屋敷」が病院移転用地になることでそうした前提が変わる中、私は河北総合病院と区立小学校の改築に絡む一連のまちづくりを改めて研究し直す必要があるのではないかと考え、関係する部課長20人ほどを集め、率直な意見を聞くことにした。このとき、大半は従前の計画で進めることを主張した。…会議で「新たな案でまちづくりい挑戦すべきだ」とはっきり言いきったのは二人だけだったのだが、…私は3者できっちり話し合いをまとめて覚書を積み重ね、約束をお互い守ろうという信頼関係を醸成すれば乗り切れるのではないかと判断したのである。」とあります。

「杉一小改築・複合化検討懇談会」で議論をし、基本計画を策定している最中に、田中前区長のこのような動きがあったと見られます。例えば、この会議の議事録、覚書などを開示するべきです。プロセスに問題がある以上、その上でつくられてきた計画は、その当時に立ち返って見直すべきです。この際、区は徹底的に検証し、区民に情報を開示してください。②p.5には、「仮に、関係者の同意なく、区において一方的に学校の移転を取りやめた場合は、…違反など、重大な違法行為に当たる」とありますが、「関係者に同意なく」も「一方的に学校に移転を取りやめる」もあり得ません。逆に言えば、3者で協議の上同意を得て、区が一方的にではなく移転を取りやめ現地改築に方針変更した場合は、…違反など重大な違法行為には当たらない」ということです。法律、都市計画の専門家によれば、行政決定の範囲内で変更は可能だということです。或いは、行政決定であっても、必要であれば行政決定を変更し、再決定すればよいことです。「振り返る会」でも、「杉一小が病院跡地に移転することは、法的に決まったことではないこと」「杉一小の現地改築は禁止されてはならないこと」を、区は認め、参加者との間で確認をしています。これから100年存続する小学校ですから、もっと慎重に見直しをしてください。③p.7には、現地単独改築案が掲載されていますが、なぜ非現実的なこの案を載せたのか疑問です。2016年までのA案は、その後の状況の変化によりこのままでは通用しなくなりましたが、他に実現可能性のある現地改築複合施設案があります。なぜ、それを一つの案として提示しないのでしょうか。A街区、C街区の用途について、プロポーザル形式とするなど、区内の専門家を知見を結集させてください。④p.14には、換地の公平性についての記述がありますが、修正係数の具体的な数字が書かれていないため、どのような計算なのか内容が全くわかりません。三者共同

施工で他の関係者に関する内容が含まれるとはいえ、区の財産のやりとりであり、公共性を考えれば、公開するべき内容です。まず区は換地が本当に公正に行われているのか検証をし、係数を明らかにすることは勿論、金額も含めて公開するべきです。それをせずに「区は損をしていない」と繰り返しても納得できるわけがありません。区内の専門家が、分かる範囲の数値を用いて試算をしたところ、換地により区の資産は約 14.3 億円減っていることが分かったそうです。この試算についても、区は具体的に検証し、区民に説明する義務があります。⑤前区政の残した阿佐ヶ谷・杉一小の問題の解決は、まだ緒についたばかりです。杉一小改築を遅らせられないことを理由に、プロセスの見直しを曖昧にして、納得を得られないままに見切り発車で計画を進めることは、絶対にやめてください。幸い杉一小は耐震工事もし、給食室の改築も行ったばかりですし、一方、河北病院の工事も 1 年遅れました。この 1 年を使って、検証と計画の修正をしてください。区民は協力します。

- 杉 1 小を病院跡地など汚染された土地に移転させるのは子どもたちの健康被害を招きかねないので移転はすべきではないです。
- 住民の意見を聞くだけでなく、反対意見が多ければ再考を、お願いします。役所と事業者で勝手に絵をかく駅前再開発にならないよう。
- 反対意見があることもふまえて、もういちどゼロベースで考えて欲しいです。決まったことだということだけでなぜ、再検討できないのかがわかりません。「子どもたちの未来のことを考える」のであれば立ち止まって何が一番いいのかを考えて欲しいです。
- とにかく先、未来を見てなにがいいのか、本気で考えたことをやっていきましょう。それには時間も必要だし、先の子どもたちのことを考えたら早急に決めなきやいけないってことじゃないと思う。例えば、具体的な（移転、現在場での）それぞれの設計案を出して、メリット&デメリットを考えながらみんなで再検討することをしたらいのじゃないかと思います。急ぐ必要ないです。未来を考えていい形を作ることが大事だと思います。